

心が動く

楊梅幼稚園では幼稚園と小学校の教育をつないでいくという幼小連携・接続について下京雅小学校と共に考えています。子どもたちの発達や成長は所属する教育機関に関わらず、ずっとつながり、進んでいくものです。幼稚園と小学校とのさまざまな違いによって子どもたちが困り、不安になるのではなく、子どもたちを中心に捉えてその発達に応じた教育をしていくことで子どもたちも安心し、学びが広がり、深まっていくことがとても重要だと捉えています。

幼児期の子どもたちは自分の興味や関心があるものに主体的に関わり、遊び、その中で様々な学びます。何かな？面白そう？やってみたい！など心が動き、興味や関心が生まれて、関わろうとするのです。もちろん、小学生の心が動く授業や活動が大事にされていくことで、主体的な学びにつながり、学びの深まりとなります。下京雅小学校と合同で「心が動く教育の創造」をテーマに今年度も研究を推進しています。

【研究冊子より抜粋】

6月。連日、園庭で色水で遊んでいました。ジュースやアイスに見立てて遊ぶ中、この日は新たにワイングラス型のプラスチック容器やゼリーカップ、短く切ったホースや製氷皿なども手に取って遊べるように置いていました。今まで、その色水で遊ぶ場に参加しに来なかった〇ちゃん。先生が「うわあ、こんなんある！」とワイングラスの容器やゼリーカップを見せるとすぐに近づいてきて、両方の容器を手にし、赤い色水を入れ、じっと見つめたり、何度も色水を入れたり…。いつもは「せんせ、…」と自分から先生に話しかけているのに、この時は真剣な表情で何度も色水を見つめたり、入れたりを繰り返し、短く切ったホースをストローに見立てて、ニコッと笑顔で教師を見ました。その後も色水をペットボトルに入れようと試みます。先生に支えてもらってジョーゴを使うことにも挑戦し、どんどん色水で遊ぶことを楽しみ出しました。

【梅小路公園の園外保育にて】

秋の自然に触れて遊ぶことを楽しめるようにと4・5歳児が梅小路公園でどんぐりや松ぼっくり、木の葉などを見つけて遊びました。5歳児は下京雅小学校1年生と一緒に秋の自然物(宝物)で、どんぐり転がしコースや車などをつくって遊んでいることからもっとたくさん必要だと落ちている木の实を拾っていました。その側に蒸気機関車が、やってきました。4歳児も同じように木の实を拾い、集めていましたが、その蒸気機関車の音がすると「ワー！」と近づき、手を振ったり、蒸気機関車の動きに合わせて走りだしたり、…。一人、そしてどんどんみんながうれしくなり、歓喜あふれて大騒ぎになりました。

しかし、そのような雰囲気の中でも5歳児たちは、目もくれず、一心不乱に木の实を集めています。この次1年生と活動するまでに、これが必要、もっといろいろなものを見つけようという思いでいっぱいです。

子どもの「心が動く」ものは？時は？場面は？と一人一人の子どもたちの様子から先生たちは考えています。本物みたいなワイングラスやプリンカップがあればやってみたいことが見つかるかな？偶然の出会いでも感動し、そばに行きたくなる。1年生と一緒に活動することが楽しくてそのためにはもっとこうしておこう、こんなものが必要。など子どもたちの姿や様子、そして発達をとらえて準備や計画をしています。園内の保育環境から十分楽しんで遊び、その中で自分で考えたり、友達や先生とかかわったりできるように保育を構築しています。また、園外にも出かけられる集団行動がとれるようになれば、子どもたちにとって心がより豊かになるようにと保育計画をしています。